



▲フェニックス工房のオープンを祝してテープカットを行う
(左から)木上工学部事務長、茂里前工学部長、

松村工学部長、鳴瀬学校工場主任、学生代表



▲フェニックス工房でロボット製作を行なう学生

さながらの雰囲気の中、屋外の避難場所に避難し、倒壊建物等からの負傷者の救出活動や、千田学区自主防災会の皆さん協力を得て、バケツリレーによる初期消火活動などの訓練が行われた。

この後、広島市中消防署員によるはしご車を使った訓練や、消火器の使い方や起震車での地震体験が行われた。

広島市中消防署長より、昨年の阪神大震災の教訓を生かし災害に強い街づくりへと人づくりを目指して欲しいとの講評があり、来年の事務局移転を控え、東千田キャンパス庁舎での最後の防災訓練となつた。

このようないくつかの機械が置かれ、学内外のイベント出展の工作からバイクや自転車の修理、日用品の自作など、学生が機材を使って自由に制作できる。

このような学生工房は国立大学では初めての試み。工房利用の第一号として、工学部生のグループがコンテスト出場のために早速、ロボットの製作を始めている。

予算の関係から、当面は大学の既存の施設を開放しての学生工作室の設置であるが、将来的には、文部省に予算要求を行つてキャンパス内の別の場所に独自の学生専用工場を建設することも検討されている。

東千田キャンパスで 自衛消防隊訓練実施



▲バケツリレーによる消火活動

防災週間最後の日、九月五日に、東千田キャンパス内で広島大学自衛消防災害訓練が行なわれた。本番



▲消火器を使っての消火活動
▲起震車での地震体験、写真は阪神大震災級の地震を体験中

留学生論文コンテストに 大学院生十六名が入賞

広島キワニスクラブ主催の「第十一回キワニス留学生奨学金・論文コンテスト」の入賞者がこのほど発表された。

優秀賞には、教育学研究科の李郁恵(台湾)さん外四名が、佳作賞には理学研究科のジョセフ・ヒュード・ビリスさん(スリランカ)外六名、努力賞に生物圈科学研究科のアグス・モハマドさん(バングラデシュ)が入賞した。

キワニスは、ロータリークラブやライオンズクラブと同様の民間の社会奉仕団体で、現在八十三か国的主要都市に八七三六のクラブが設立されている。

「山中正雄翁頌徳碑」を移設

広島大学附属福山中・高等学校の前身、山中高等女学校は、一八八七(明治二十一年)に、山中正雄氏によって創設されました。日本最初の私立高女として、近代日本の女子教育史上、重要な役割を果しました。

山中高女は、一九四四(昭十九)年山中トシ理事長によって國に寄付され、教育学部の前身の一つ、女子高等師範学校新設の基になつたのです。

一九三七(昭十二)年に、山中正雄翁の功績を称えて建てられた「頌徳碑」は、一九四五(昭二十)年八月六日の被爆にも破壊されず、広島市千田町の山中高女跡地に残つています。ですが、広島大学の移転によって存置不可能となり、このたび、山中高女の後身である福山附属への移設が決まりました。

福山附属では、十月二十日(日)碑の移設を記念して、広島大学、広島県、福山市の関係者と山中高女の卒業生の方々をお招きして、移転記念式典を開催しました。

「時」のかたみに —広島女子高等師範学校 記念碑の建立



▲「頌徳碑」の移設作業中の様子

去る九月二十七日(金)、東千田キャンパスとして存置予定の旧大学会館中庭に、卒業生一同により広島女高師の記念碑が建立された。側には、原爆死没者追悼の碑や広島文理大・広島高師発祥の地の碑などの記念碑が建立されている。

碑文によると、「広島女子高等師範学校は一九四五年三月 文部省直轄学校として創設された我が国三番目の女高師で 千田町二丁目財團法人山中高等女学校理事長山中トシの英断により國家に寄付された校地校舎諸設備を母体に同校を附属山中高女として開校した経緯を持つ。

当時は太平洋戦争末期で 連日の空爆下を全国から八十二名の生徒が入学、間もなく原爆により校舎は瓦解焼失し七名の死者と全員被爆の傷痕を負つて敗戦を迎える。

戦後は安浦町・福山市などを移転ののち一九五二年三月 四期生の卒業を最後に閉校した。僅か七年の校運ながら 戦後の教育界に二十五名の同窓生を送り出し 新制広島大学に包括された」とある。

なお、十一月には除幕式が行われる予定。